

史上最強戦

近代の雀ガリジア 近代

新銳 古豪 山田・小島の決勝対談

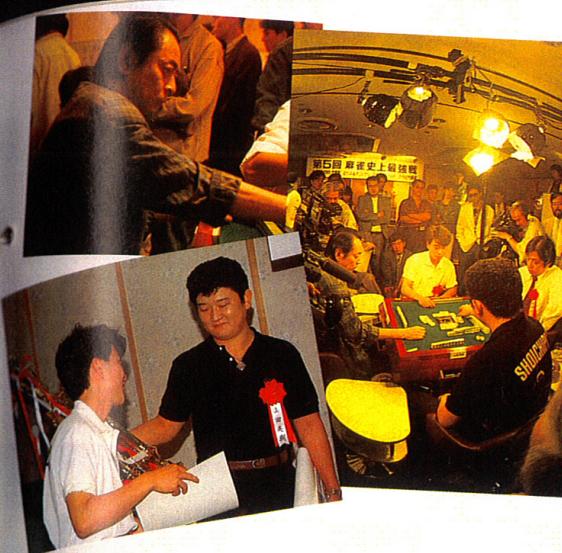


▶ 麻雀は最高のギャンブルだ。(小島)
▶ 麻雀は無色透明のもの。自分はギャンブルとは見ていない。(山田)

決勝第2回東1局口本場 ドラ[△] ウラ[△]



▶ いきなりのオヤッパネで、逆転の希望が断たれたことが解ったよ。(小島)



決勝第1回南3局1本場 ドラ[△]



▶ このマンガンツモでトップの山田君と3400点差となり、逆転への手ごたえを感じた。
この1局が1番印象に残っているね。(小島)



体を張れる、それがプロの証だ。

麻雀はギャンブルか

小島 僕はいつもどう閒うかってことはまったく考えてないんだ。作戦なんて一切ないよ。相手のことはどうでもいいの。自分がやる気になつてないのが一番怖いね。

山田 自分も、あの日の三回戦以降は麻雀に入り込めたっていいか、無色透明になつて打てたよう思います。小島 決勝の二回戦、いきなり千オールをツモったよな。

山田 はい。あの時点では僕が追いつけるかどうかがボイントだったと思うけど、正直あれで「やられたり」とって感じだった。

山田 そうですが、小島 君だってほっとした顔してたじゃないか(笑)。

山田 ? (けげんきうな顔)

山田 今はやらないですね。小島 なんだ。結果的に負けることが恥なのでではなくて、経過において男として恥ずかしくなくやっているかどうかが大切なことなんですね。

小島 なあんだ(笑)。桜井さんと会う前のことだね。

山田 はい。小島 じゃあもしの出会いがないかつたら?

山田 十代のころから数年間のめり込んでまして、一通りはやつてきたつもりです。

小島 じやあ山田君はバクチは全然やらないの?

山田 今はやらないですね。小島 今は何? (苦笑)

山田 今はやらないですね。

山田 うん。ちよつと違います。山田 君は普段は桜井さん

の店(麻雀荘・牌の音)で働いてるんだよね?

山田 はい、そうです。小島 僕の若いころ同様、麻雀

清けの毎日なんだな。

山田 うん。ちょっと違いますね。確かに毎日十回以上は打

てるんですけど、麻雀はあくまで仕事の一部なんです。むしろ麻雀を通じてみんなで旅行したりスポーツをしたり、みんなで何かやろう、生み出そうとすることを大事にしています。小島 ふうん、違うんですね。僕は阿佐田先生の遺志を継いでプロ連盟を作りはしたけれど、本来負師は一人で闇うるものだと思つてます。まあ僕もずいぶんいろんなギャンブルをやつてしまけど、やっぱり麻雀は最高のギャンブルだよ。

山田 自分は麻雀をギヤンブルとして見てはいけないんですよ。それが小島さんとの根本的な違

いかもしませんね。麻雀自体は無色なものの、そこに関わる人によってどんな色にも染まるものだと思うんです。小島 そうかねえ。麻雀はギャンブルで、身体でぶつかるものだよ。負ければ恥をかく。恥をかくのは身体に傷が入るのも同じ

小島 僕は自分のことを名人だの達人の言つたことはないんだ。まだまだ研究途上だからねえ。常々思うんだけど、麻雀って、人の力が及ぶのはイーライテンまで。あとは運賦天賦次第なんだな。でもそこで身体を張れるかどうかがプロとアマの違いなんだよ。僕の背中には大

小島 僕は自分のことを名人だの達人の言つたことはないんだ。まだまだ研究途上だからねえ。常々思うんだけど、麻雀って、人の力が及ぶのはイーライ

テンまで。あとは運賀天賦次第なんだな。でもそこで身体を張れるかどうかがプロとアマの

違いなんだよ。僕の背中には大

小島 僕は自分のことを名人だの達人の言つたことはないんだ。まだまだ研究途上だからねえ。常々思うんだけど、麻雀って、人の力が及ぶのはイーライ

テンまで。あとは運賀天賦次第なんだな。でもそこで身体を張れるかどうかがプロとアマの

違いなんだよ。僕の背中には大